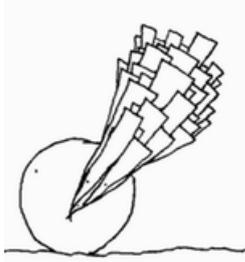


何不足 人は裸で生まれたに

永田円了

Learn To Be Lonely



私たちは一体何を求めているのであろうか。喉が渴けば水を欲し、腹が空けばお腹を満たそうとする。でもまた喉が渴き、お腹も空く。生命の営みは、この繰り返しのなのであろう。

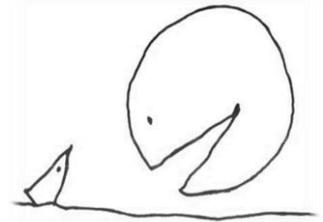
だが、人の意識はどうだろうか。生命維持的な繰り返しだけでは、意識は満足しないであろう。意識(マインド)はもっと貪欲に自らを満たそうとする。

異性を求める引力

なぜ男は女を、女は男を求め続けるのだろうか。本能といえはすぐ説明がつくかもしれない。しかし人間はただの動物以上の「引力」意識があるはずである。欲深いエゴをもつ人間は、絶えず自らのエゴを満たすために奔放する。その根底には、自らが不完全であるとの思い込みからくる

“恐れ、渴望、欠乏、空虚感”がある。人は誰もが、完全無欠の“ひとつの円”になりたいのである。男と女の問題は、一個のリンゴの半分がもう半分を求め、一つの完全なリンゴになりたいという願望の象徴的な例である。

一人でいる時に、自分自身と一緒にいて心地よくない人は、自分の不逞を覆い隠すために、人との繋がりを求めるのである。



おおいなる自己

では果たして一人ひとは、“不完全な存在”なのであろうか。リンゴでいえば、何分の一かが欠けた存在なのか。このように不完全という前提がある限り、心にぼっかり空いた穴を埋めようとエゴは彷徨い続ける。一時的にこの空虚を何かで埋めたとしても、満足はそう長くは続かない。この穴は底なしなのである。

作家、大岡玲は言う。「状況が良かろうが悪かろうが、自らが幸せ感をもつことを学ぶ教育がなされてこなかった。これが戦後の教育の大きな欠点である」と。マイホームを手に入れたら、幸せになれる。給料が上がったら、彼氏、彼女ができたら、といつも条件付きの幸せを追いかけてきた。これをたら釣り専科というらしい。



実は、何にもなくても人間の心は平和で幸福な気持ちになれるのである。私たちの中心にある“おおいなる自己”は、“たら釣り”はしない。何がなかろうとも、あろうとも、心の自由は命と呼应してもくもくと生きる。

<事例>

Shel Silverstein 作 The Missing Piece Meets The Big O

NHKドラクワより、「113 回目のお見合い」 2011/10/28

ブラックホール／歌・ Where do I start? Where do I begin?

The Black Hole / 欲深い男の物語

映画「居酒屋兆治」 高倉健 & 大原麗子 私が幸せになれるのは、あなたが悪いのよ

自立するフランス女性たち: 婚外子、二人にひとり、PACS ドラクワ 2011/11/4

欲深くなった人の脳／直立歩行が始まり、人間の脳は発達した

大岡玲／状況が良かろうが悪かろうが、幸せを感じる教育をしてこなかった

オペラ座の怪人より／Missing Piece が 自立して O になっていく

歌・That's All I Ask Of You より／Missing Piece の悲哀が人の心の隙間に入り込む

歌・ビヨンセ Learn To Be Lonely／独りが自立したロンリーであるからこそ、

二人でいる温かさが分かる

